



令和 7 年 7 月 1 日

No.109

編集人

公益社団法人
兵庫県精神福祉家族会連合会
新 銀 輝 子

〒651-0062 神戸市中央区坂口通 2 丁目 1-1 兵庫県福祉センター 6 階 TEL: 078-891-3871

メール: hyokaren@citrus.ocn.ne.jp オフィシャルサイト: <https://hyokaren.or.jp>

回復を信じて希望を持ち続けよう！

ひょうかれん 副会長 満原 義幸

ドキュメンタリー映画「どうしたらよかったか」、クローズアップ現代「心が削られる精神疾患 家族の告白」を立て続けに観ました。精神科を受診する人が600万人を超え、実に国民の 20 人に 1 人が受診しているといえます。受け皿となる家族が重い負担を抱え込み、自分の人生を家族の看護に注ぎ込まざるをえない現状を見るにつけ心が痛みました。心が折れそうになりながら、私が折に触れ読んでいる本、「統合失調症 家族はどうしたらよい」(池淵恵美監修)を読み直したところ、「本人は大きな不安と混乱・無力感を抱えている。統合失調症は治る病気、ただし、外部からの見守りとサポートが必要。あせらず、回復を信じて希望を持ち続けることが治療とケアの長い年月を越えていくためには必要。家族として変えなければいけないのは接し方。親の思いを伝えすぎないこと、親の描く勝手な理想像が本人のしたいこととは限らない。家族もこころのバランスを崩さない心がけを」「発病から 10 年、20 年、30 年という非常に長い期間で追跡調査した結果では 25%の人はほとんど症状がなくなって自立した生活を送り、50%の人はときどき通院して周囲の人の助けを借りながらも、仕事に就いたり結婚したり、かなり自立的な生活をするか、家では半自立的な日常生活を送ることができている。病状が安定するまでには最低でも 5 年以上、10 年単位の年月がかかる。」と書かれています。

私の子供は発病してから 15 年余りが経過した 1 年ほど前からやっと症状が安定してきたと感じています。行動が活発になり、会話もはずむようになりました。今では本人から話しかけてくることもあります。これまでずっとひきこもり会話もほとんどなかったのがうそのようです。本に述べられているように、あせらず回復を信じて希望を持ち続けてよかったと思っています。親としては何とか経済的にも自立した生活を送ってほしいと願っていますが、親の描く勝手な理想像を本人に伝えすぎないこと、本人の考えをあくまで尊重することを肝に銘じて接していきたいと思っています。



兵庫県の入院者訪問 支援事業について

兵庫県福祉部 障害福祉課 副主任 松浦 日向子

入院者訪問支援事業は、改正精神保健福祉法に新設され、兵庫県は神戸市と共同実施することを決め準備を進めてまいりました。

本事業は、精神科病院入院者のうち、特に医療機関外の者との交流が途絶えやすい市町村長同意による医療保護入院者を対象に、訪問支援員（以下、支援員）が面会し、入院生活の困りごとなどを傾聴し必要な情報提供を行う事業です。患者の孤独感や自尊心の低下を緩和すること、患者の人権擁護、第三者である支援員が訪問することで閉鎖的になりやすい病院環境の風通しを良くしていくことが目的となります。

兵庫県内でも過去に、精神科病院における事件が発生していることも踏まえ、患者の権利擁護および病院の風通しを良くするために本事業は必要であると考えています。

令和6年度はモデル実施とし、令和6年6月に「入院者訪問支援員養成研修」を開催しました。ひょうかれん会員様にも参加いただき 24 名の支援員を養成しました。令和6年7月からは県内の4病院に対して半年間定期的に支援員を派遣し、支援員及び病院の方々の丁寧な対応と手厚い協力により、延べ59名の入院者が利用されました。

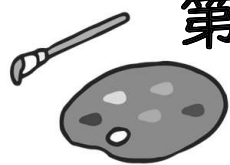
利用者からは「面会を楽しみにしている」「話を聞いてもらってすっきりした」、病院からは「職員も聞いたことがなかった本人の希望が引き出され、実現することができた」「職員の良い刺激になった」、支援員からは「話ができてよかった。スッキリしたとの感想をいただきうれしかった」「患者とゆっくり話をする大切さを改めて実感した」との感想をいただきました。

一方で、「具体的な支援ができないのもどかしい」「入院者が自分で面会希望を伝えること自体ハードルが高い」といったご意見をいただきました。

実際に支援員を派遣するまではどのような反応があるか不安でしたが、定期的に面会に来てくれる人がいるということだけでも効果があり、事業の必要性を実感することができました。自分で希望を伝えることが難しい患者にこそ利用してもらいたい事業なので今後工夫が必要だと考えています。

秋以降には全精神科病院への支援員派遣開始を予定していますので、これからも神戸市や関係機関と検討を重ねてまいります。





第 20 回 兵庫県障害者芸術・文化祭 美術工芸作品展



表記の展覧会が令和 7 年 3 月 2 日～6 日に兵庫県立美術館ギャラリーで開催されました。今年は、「絵画の部」「書道の部」「写真の部」「工芸・その他の部」の各部門を合わせて、448 点の応募がありました。「絵画の部」(279 点)は、一つひとつの作品が個性的で、例年にも増してすぐれた作品が多く、充実した内容でした。「書道の部」(60 点)も、多くの魅力的で味のある力作が揃いました。已年ということもあり、大きく伸びやかな筆の作品が多い印象でした。「写真の部」(16 点)は、今年も残念ながら出品点数が多くありませんでした。今はスマートフォンでもよい写真は撮れます。自分の心に強く響くモチーフや風景を見つけて撮り続けてください。「工芸・その他の部」(93 点)は、多様な表現で楽しめる作品が多く見受けられました。丁寧に、心を込めて制作している姿が思い浮かびます。今年度兵家連会長賞は写真部門からです。



川上 喜夫作

『明日の花』

姫路市・障害者アート作品展示コーナー開設

姫路市健康福祉局 障害福祉課



(展示の様子)

「第4回つながりUP文化展」で
入賞した作品を展示
(令和7年3月31日迄)

(概要)

令和6年11月から総合福祉会館5階ロビーで、絵画などの障害者アート作品コーナーを開設しました。

市内の事業所で利用者の方々が制作した作品を募り、展示をしています。

(展示期間)

3期に分けて作品を展示

- ① 4月1日～7月31日 ② 8月1日～11月30日 (9月を除く)
- ③ 12月1日～3月31日



詳細は HP へ

ちょっと
聞いて！

「たかが歯、されど歯」

兵庫県保健医療部 健康増進課 歯科口腔医務官
時岡 早苗

皆さんは、歯の痛みがなくても定期的に歯科健診を受けていますか？

初めて行った歯科医院でいきなり歯科治療を受けるのは不安ですね。

精神障害のある方も同じです。恐怖や痛みから、治療を拒否される場合が多く、歯科治療は困難を極めますので、転ばぬ先の杖として、家族でかかりつけ歯科医を決めて、相談しやすい関係を築いておくとう安心です。健診時の説明が丁寧で、歯を大切に守ってくれる先生を選びましょう。

ひきこもりやギャンブル依存症等では、洗顔や歯みがきなどがおっくうになり、口の中も不衛生になりがちです。かつ服用薬の副作用で唾液量が減少すると舌痛症や味覚異常、口内炎等が頻発し、食事や会話に支障をきたします。そして口の中の細菌が増えると、誤嚥性肺炎のリスクに加え、むし歯や歯周病が進行し、歯を失ってはじめて歯のありがたさを知ることになります。

歯みがきが困難な時は、歯みがきを強要するのではなく、①口が乾いたら水を口に含むことから始めて②マウスウォッシュによるうがい③キシリトールガムを噛む④歯みがきシートで歯を拭くなど、本人が爽快感を実感しながら、一つずつステップアップしていくことが大切です。

さらに、普段、回転式の電動ブラシを使い慣れていると、急性期にもそのまま歯みがき習慣を持続できた人が多かったそうです。

また歯周病は、糖尿病や心疾患、呼吸器疾患、認知症など、さまざまな全身の病気にも関わっています。国内の調査では、定期的に歯科に通院していた 65 歳以上の年間医療費は、そうでない人より約 16.5 万円も安く、しっかり噛めれば、脳の活性化や免疫力・運動機能の低下防止にもなり、要介護や死亡リスクも半減しました。命にも直結する歯の健康は、まさに「たかが歯、されど歯」なのです。

精神障害のある方が地域で安心して歯科受診できるよう、兵庫県では精神疾患の研修会を介して精神科病院と連携して精神障害者に対応できる歯科医院を増やしています。また、精神科病院の職員に口腔ケアの動画配信や、実地指導も行っています。歯についての困りごとや、自力で歯みがきできない時には、遠慮せず周囲にご相談ください。





障害者運賃割引の動向と今後について

ひょうかれん 会長 新銀 輝子

2024 年 4 月 11 日、JR 及び大手私鉄は精神障害者の運賃割引を 2025 年 4 月 1 日より開始すると発表しました。顔写真を貼付した精神障害者保健福祉手帳に「旅客鉄道株式会社等旅客運賃割引」の記載をしてもらうことが必要で令和 7 年 1 月より市町の窓口で手続きが可能になりました。このことは 2014 年から全国精神保健福祉会連合会として運賃割引運動をはじめて 10 年目にして山が動き、3 障害平等と言われて久しいですが、その思いがやっと伝わったのだと感謝しています。しかし、実は 100km 以上と言う点では、多くの障害者が恩恵を受けるものではありません。精神障害者は経済的な理由によって、外出を控えている人が多数おり、むしろ割引によって新たに公共交通機関を利用するようになる人と捉えてほしいと考えています。2024 年 6 月から精神障害者への割引実施に踏み切っていただいている京成電鉄は、現在 100km 以下の割引制限撤廃が全ての障害者手帳に適応されています。この京成電鉄の英断は、何人も自由に移動する権利を保証する機関としての使命を果たされているのではないのでしょうか。交通運賃割引運動は、精神障害者の生活基盤を支える重要項目として今後も継続していきますので、皆様ご支援のほどよろしくお願いします。



兵庫県内精神障害者交通運賃割引の現状

ひょうかれん 副会長 南部 和幸

今年 4 月から JR と大手私鉄の交通機関は、精神障害者について身体や知的障害者と同様の割引制度を導入した。みんなねっとでは、この割引制度の 100km 以下の割引制限の撤廃運動を進めている。

今回、兵庫県内の鉄道、バス、船の精神障害者割引について調べた。鉄道は、北条鉄道と智頭急行株式会社は 1, 2, 3 級の精神障害者は単独で半額割引だが、他の鉄道は、JR と同等か、又は 3 障害全てに運賃割引がなかった。(但し、智頭急行株式会社は回数乗車券のみ割引対象である)

バスは、全てが身体と知的障害者を割引対象とし、精神障害者は割引対象となっていなかった。神戸市の福祉乗車証のように、一部の市町ではその市町に住む障害者には割引制度を導入しているが、他市から来る障害者は対象外であった。

船は、サンフラワー、宮崎フェリー、神戸関空フェリーには精神障害者の割引制度があったが、淡路ジェノバラインは身体と知的障害者にしか割引制度はなかった。

今後、鉄道、バス、船会社に精神障害者の運賃割引を要望していきます。



1

阪神北地区

暑い中、熱い語らいを通して

三田家族会の「家族による家族学習会」から見えてきたもの

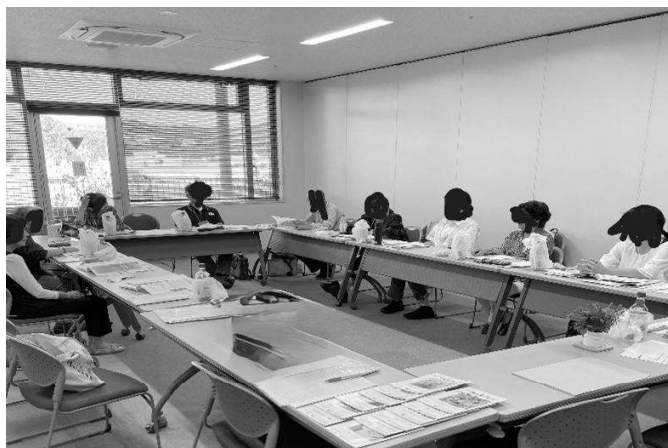
あまかれん 園田なごみ家族会 家族学習会アドバイザー

代田 ひろみ

2024年8～10月、暑い中で三田市にじの会の「家族による家族学習会」が行われました。研修を受けた家族会員が、悩み事を抱えた家族さんに参加者となってもらって5回シリーズでコンボ出版のテキストを輪読しながら、それぞれの体験に基づく思いを言葉にして相手に伝え、そして相手の思いをしっかりと聞いて受け止めるという学習会です。

皆さんの学習意欲は旺盛で、この前向きな姿勢の中から、相手に寄り添う言葉や共感が随所に溢れだし、話しているご本人は気付かないうちにどんどん話題が進んでいきます。それらを書き留めていた私はたくさんの学びを発見し、にじの会の皆さんに報告しました。リーダー、担当者の言葉によって当事者への関わり方、家族関係のあり方、人としての生き方までもが無意識に語られていたことを知って皆さん驚かれます。

参加者からは、話を心ゆくまで聞いてもらえて安心感につながった、今後の生き方のヒントを得た、という感謝の言葉が聞かれました。また担当者からは、話し合いを進める中で、自分のこれまでの体験が思いもよらない寄り添いの言葉となって相手に響いていることを再確認し、皆さん満足感や達成感を得られたという意見がありました。これを機に家族会員の増加（参加者の中から何と今回3人がにじの会に入会されました）や相談力がレベルアップし、今後の家族会活動にも大いに生かされるであろう、有意義な家族学習会でした。



みんなねっと賛助会員・購読者募集中

兵家連では家族会の全国組織である「みんなねっと」の活動を支援、更に発展を促す為に「月刊みんなねっと」購読者の拡大活動を行っています。

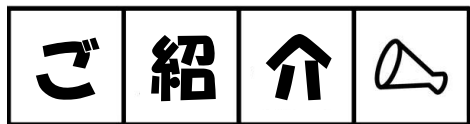


賛助会員（購読料金）

- ・個別賛助会員 年会費 3,600 円
- ・特別賛助会員 年会費 5,000 円～
2冊以上の団体賛助会員もあります。



詳しくは、みんなねっと（Tel03-5941-6345・平日 10～16 時）まで。



神戸市に新たな「にも包括」 新家族会設立への挑戦!!

特定非営利活動法人 神戸市精神障がい者家族会連合会
理事長 涌波 和信

4年前に元神戸市健康局保健所保健課長から活動停止状態の「神家連」を精神保健福祉向上のためになるように改革することへの依頼を受けました。別途活動していた神戸市家族会協議会は認知度は高くありませんでしたが、苦しみのどん底の精神疾患の家族の後ろ盾として地道な活動を17年間必死にやってきました。そして今新しい「神家連」として、再スタートです。メンバーと再々にわたる討議を重ね、法人化、広報誌作成、HP作成、各部会設立、研修会開催や神戸市の独自の新規発症患者家族教室等続け、やっと軌道にのりつつあります。昨年10月には「神戸市議会議員精神保健研究会」も再出発しました。

神戸市議会では「健康づくりの推進・医療の充実」が15億5400万の予算で決まり、昨年度に続き「精神障害にも対応した地域包括ケアシステム構築」にも予算配分され、各9区での「にも包括」の組織が出来ました。今後、各区での「にも包括」の組織に当事者や家族が参加できることが望まれます。

30年前からの東灘区のみつばちと灘区の木ノ芽家族会灘部会、10年前からの長田区の自立支援協議会(精神部会)、西区の新生病院院長自らの家族教室活動があります。また、NPO法人神家連相談部は家族相談に訪れる多くの方々に改善への道を開くために、近隣の精神疾患に関わる数々の機関との連携に着手しました。

さらに、神戸市内10家族会に次いで、中央区に新たな家族会が設立されました。兵家連との連携を深め、安心してその人らしい地域生活を過ごせるように支援し、そして種々の機関と連携する家族会です。今後、西区の新生病院院長自らの主導の家族会、長田区自立支援協議会の家族会設立も期待されます。随時、最新情報をご確認いただきお役立てください。

精神科救急窓口のご案内



精神科救急情報センター電話番号：078-367-7210

平日：午後5時～翌日午前9時
土・休日：午前9時～翌日午前9時
(平日昼間は健康福祉事務所へ)

※ご利用の際は、氏名・住所・連絡先を対応職員に教えてください。



丹波市木の根会家族会の 取り組みについて

丹波地区

木の根会家族会 会長 足立 定之

木の根会家族会は昭和63年(1988年)6月に会員19名をもって発足してから36年が経ちました。当時の家族会会員が「木の根はその根がある土の中で、目には見えないが水や養分を吸い上げて、それによって木は緑の葉や枝を広げ、空高く太陽の光を求めて伸びていきます。人も生きていくうえで必要な目には見えない対人関係や信頼関係という人の心の水や養分を糧として育っていることから、当事者に寄り添い、共に生きていこう」との思いを込めて、「木の根会」と命名されました。

木の根会の相談会

丹波市の精神障がい者保健福祉手帳の所持者は1級79人、2級325人、3級185人の合計589人です。これらの方々やご家族のために、独自の24時間電話相談、毎月一回、会員による相談会を開催し、新聞広告や住民センターでのチラシ配布で周知活動をしています。

行政への要望活動

今年度、丹波市への要望書を市長に手渡し、回答を得ることができました。市の改正により、これまで当事者が受診の都度、市の窓口で行っていた償還払い手続きの必要がなくなり利便性が格段に高まります。

(令和6年12月4日)

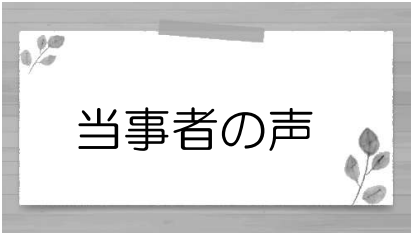
精神障害者医療費助成制度の利便性向上策について

((要望の要旨) 他の障がい者(身体・知的)と同様に入院、通院ともに医療機関窓口において一部負担金の支払いが完了するように現物給付方式にしてほしい。

(市の改善策) 令和7年7月診療分から精神障害者医療費の助成額の見直し(簡素化)を行った上で、「精神障害者医療費受給者証」を発行して、助成方法を償還払いから現物給付に変更する。

精神障害者 保健福祉手帳	診療区分		
	一般診療 (入院・外来)	精神疾病による 入院	精神疾病による通院 (自立支援医療)
1 級	現物給付 (半額助成)	現物給付 (半額助成)	償還払い (半額助成)
2 級・3 級	現物給付 (半額助成)	現物給付 (半額助成)	償還払い (半額助成)

*自立支援医療は公費負担(県)制度のため市独自では改正できない。(8年度県見直し)



当事者の声

セルフヘルプに出会って

精神障害者当事者会ドリームファクトリー

代表 白瀧 泰子

精神障害者のヘルプグループ「ドリームファクトリー」を発足させたのは、平成11年11月のことです。同年9月に全家連が主催する全国精神障害者ヘルプグループ研修会に参加したことがきっかけでした。それまで私は支えられるばかりでしたが、全国の当事者の活動を聴いているうちに、自分にも何かが出来るかもしれないと思ったのです。今では、地域で、仲間同士お互いに支え合い、様々な思いや悩み、情報を分かち合うことの素晴らしさを実感しています。

(自分の偏見)

私は発病後、受診まで6年位を要しました。なぜなら、精神科に強い偏見があったからです。その間、鬱状態、自殺未遂、摂食障害を経験しました。早期に、良質な医療を受けることは、その後の人生に重大な影響を及ぼします。しかし、本人も家族も偏見が強いため、かなり追い詰められてからやっと精神科の門をくぐります。

(周囲の理解)

この病気は特別な人だけが罹る病ではないと言えるのではないのでしょうか。いつ、自分や、家族、友人がそうなるかもしれないと思えば、もっと理解しようとしても良いはずです。しかし、大部分の人は、精神障害者を危険視し、差別的態度をとったり、無関心をよそおいます。

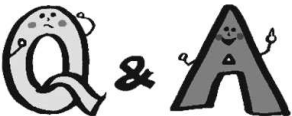
(地域で)

私たちを閉じ込めるのではなく、地域であたりまえに暮らしたいという思いを理解していただきたいと思います。隔離、収容の時代から地域精神医療へと移りつつありますが、欧米などと比べ日本はまだ遅れています。障害者が地域で安心して暮らせることが、誰にとっても安全で暮らしやすいことでありそれを望んでいます。

(メディア)

精神障害者の犯罪報道ばかりが注目を集めてしまいましたが、犯罪白書によると、精神障害者、又は疑いのある人の犯罪率は一般の人の1/3で、治療や、治療を中断していた場合が多いです。犯罪報道だけでなく貧困な医療制度や、差別的な法制度などについてもっと報道すべきで、大部分の精神障害者の真実の姿を伝えるべきです。

電話相談



ご相談いただいたご家族からの事例をご紹介します。
なお、守秘義務により内容は若干変更させていただいております。

Q 家族を支援するためのプログラムについて、どんなものがありますか？

A 精神科病院や心療クリニック、行政などでは「家族教室」「家族心理教室」などと呼ばれるご家族のためのプログラムが開催されているところがあります。目的としては病気や制度について理解を深めたり、ご家族自身の不安な気持ちや悩みを一人で抱え込まないよう、参加されたご家族が元気になれることを目的としています。

「病気を抱える子どもにどう接していいかわからない」「この先どうしたらよいのか不安で仕方ない」など、ご家族の抱える悩みは様々です。ご家族向けのプログラムでは医師や看護師、精神保健福祉士や作業療法士などの専門職が運営スタッフとなり、ご家族主体でグループワークを行うこともあります。グループワークでは、①よかったこと探し、②相談事を出し合い、検討事項を決める、③その具体的な状況の確認、④参加者からアイディアを出し合い、検討事項を決める、⑤その具体的な状況を確認、⑥参加者からアイディアを出し合い、困りごとに対する解決の糸口を見つけていく、といった流れになっています(家族心理教室 国府台モデルの場合)。

グループワークを通して、ご家族のエンパワメント(ご家族自身が持つ強さ)を引き出し、「なんとかなるかもしれない」と思える安心感、「一人ではない」と思えるつながりの感覚、「自分自身を認めることができる」自己肯定感を高められるようなプログラムとなっています。

回数を重ねるごとに、家族間でのつながりが深まり、プログラムの全工程が終了する頃にはスタッフがいなくても家族間での交流が生まれています。また、問題解決に向けての肯定的な考え方ができるようになるなど、ご家族の持つ強さが大きくなっています。

まだまだこのようなご家族を支援するプログラムを開催しているところは多くありませんが、ご興味のある方はかかりつけの病院や行政窓口にご相談してみてください。

お気軽にご相談ください

ひょうかれん電話相談

病気のことや経済的なこと、くらしの悩み、福祉制度(手帳・年金・他)利用の手続きなどについて、精神障害者相談員として県知事委嘱を受けた家族相談員や、精神保健福祉士などがご相談をお聞きします。(匿名可) ぜひご利用ください。

TEL : 078-891-3886

平日 10 時～12 時、13 時～15 時



賛助会員 ありがとうございます

令和 6 年度も、下記の団体及び個人の方々がひょうかれんの活動にご賛同くださり、
賛助会員にご加入いただきました。厚くお礼申し上げます。今後ともよろしく
お願い申し上げます。(順不同・敬称略・令和 7 年 3 月 31 日現在)



医療機関の部

原田心療クリニック 原田元基、高石医院院長 高石俊一、かねだ心療クリニック 金田弘幸、
医療法人全人会仁恵病院理事長 中島宣行、宮崎クリニック 宮崎隆吉、永安心療クリニック 永安茂雄、
大森クリニック 大森和広、香良病院、いずみ心療クリニック 谷口加容、医療法人山伍会播磨大塩病院、
たなか心療内科 田中勇三、向陽病院 作業療法室、幸地クリニック 幸地芳朗、平本医院 平本憲孝、
医療法人社団随縁会ことしろクリニック理事長 印部亮助、いぬいこどもクリニック 乾幸治

一般団体の部

日本共産党豊岡市議団、一般社団法人佐用郡医師会、一般社団法人赤穂市医師会、北家族会、
一般社団法人兵庫県トラック協会会長 原岡謙一、一般社団法人伊丹市医師会、日本共産党伊丹市議団、
一般社団法人宝塚市医師会、西村商店 西村稜威雄、日本共産党伊丹市会議員団

法人・施設・作業所の部

一般社団法人 belle vie、NPO法人くぬぎ、特定非営利活動法人夢の会ぐりん・どあ、
地域活動支援センターあさざり、一般社団法人 i-crosso 代表理事 松岡務、
特定非営利活動法人いねいぶる、非営利活動法人すぎなの会、特定非営利活動法人居場所、
合同会社アイグルー、心のワークセンター 吉田恵子、みはら家族会 山口勇樹、NPO法人つつじ会、
社会福祉法人かがやき神戸、NPO法人コスモス

個人の部

西理、田中あきよ、きだ結、高瀬建三、大野真一、青木聖久、西池絵衣子、川並正幸、朝倉えつ子、
岡田ゆうじ、田中耕、内藤博史、松尾享、桑田茂樹、東田寿啓、北川泰寿、藤原清勝、榮正浩、桑名幸夫、
鈴垣育子、広田まゆみ、川並忠和、橋本和彦、神澤正三、窪田潤子、中西礼皇、金井貞文、村田庸子、
森元清蔵、相崎佐和子、むらの誠一、小西ひろのり、寺延順市、立花俊治、橋本成年、八木米太朗、東田巖、
義本みどり、綿瀬和人、松澤千鶴、小森弘詞、松本則子、尾西ゆみ子、赤田勝紀、村上恵一、今中和男、
山中絹子、久保田康愛、高野純江、久保田けんじ、岡留美、神頭敬介、安部文子、有野和枝、タカハシアコ、
今中英志、金田知子、岡崎利治、中村雅宥、上野英一、かじ幸夫、矢内正孝、山根敏子、山田立美、櫻井周、
間森和生、石川也寸志、白井和弥、匿名(1名)、無記名(1名)

ひょうかれんは、あなたのご支援で運営されています！

ひょうかれん賛助会員募集

会員の皆さまには、会誌「ひょうかれん」を年 3 回お届けします。また、年 1 回
誌面でご紹介させていただきます。

年会費：団体の場合 一口 10,000 円

個人の場合 一口 3,000 円

一口以上何口でも結構です。

振込先：郵便振替 01110-4-83568 兵家連



兵 家 連 活 動 日 誌

役 員 の 動 き
(2025 年 1 月～4 月)

K S K P

発行人…関西障害者定期刊行物協会／大阪市天王寺区真田山町2-2 東興ビル4F
一九四八年八月二〇日第三種郵便承認 毎月(一・二・三・四・五・六の日)発行

定価…五十円

1 月	5	R6ひろば 東播地区くふれあい作業所・電話・メール>(明石ともしび会)
	8	新年挨拶回り<県福祉センター・兵精協・県庁>(新銀、南部、満原)
		医療費助成セミナー「精神・発達障害がある人の医療費助成(福祉医療)」 <姫路市役所>(姫路市議会精神保健福祉研究会)
	10	医療費助成セミナー「障害がある人がよりよく暮らすための応援団～人・場・制 度やサービスという社会資源の活用～」<姫路市総合福祉会館> (ひめかれん)
		R6理解 丹波地区 親なき後の子どもの在宅支援を考える会 <ハートフルかすが>(木の根会家族会)
	11	R6ひろば 丹波地区<ハートフルかすが・電話・メール>(木の根会家族会)
		R6ひろば 阪神北地区<三田市総合福祉保健センター・電話・メール>(にじの会)
		第7回電話相談員「語りのカフェ」<県福祉センター> (藤澤PSW、新銀、電話相談員)
	12	R6ひろば 姫路・中播地区く峰の会作業所・電話・メール・LINE>(中播磨峰の会)
		優生連院内集会<衆議院議員第一会館・オンライン>(新銀)
2 月	14	「地域におけるパラスポーツ振興事業」終了後の振り返りと今後の取組会議 <神戸市教育会館>(新銀)
	16	第73回きょうだい会<県福祉センター>(福田)
		R6ひろば 北播地区<アイグルー・電話・メール>(ほのぼの会)
	18	阪神南地区こころの病家族教室<芦屋市木口会館>(芦屋家族会)
	19	R6ひろば 東播地区くふれあい作業所・電話・メール>(明石ともしび会)
	22	みんなねっと第3回医療費助成推進プロジェクト<オンライン>(南部)
	26	R6ひろば 淡路地区<いちばん星・電話・メール>(みはら家族会)
		中播磨地区こころの病家族教室<福崎町文化センター>(峰の会、新銀)
	28	近畿ブロック代表者会議<オンライン>(新銀、南部)
	2	R6ひろば 東播地区くふれあい作業所・電話・メール>(明石ともしび会)
3 月		会誌#109編集委員会<県福祉センター>(新銀、南部、大塚、三木)
	5	R6年度第6回運営委員会<県福祉センター> (新銀、南部、大倉、佐伯、新銀茂)
		R6ひろば 丹波地区<ハートフルかすが・電話・メール>(木の根会家族会)
		R6ひろば 阪神北地区<三田市総合福祉保健センター・電話・メール>(にじの会)
	8	東播磨地区 こころの病家族教室<明石市立総合福祉センター> (明石ともしび会)
		阪神北地区こころの病家族教室<伊丹市アイ愛センター>(あじさいの会)
		R6県精神保健福祉大会・職親会講演会<県看護協会ハーモニーホール> (新銀)
	9	R6ひろば 姫路・中播地区く峰の会作業所・電話・メール・LINE>(中播磨峰の会)
	10	第2回県障害者雇用・就業支援ネットワーク会議県レベル会議 <神戸ポートオアシス>(南部)
	11	ひょうご発達障害者支援センター開設20周年記念講演会 <ウイズあかし子午線ホール>(南部)
4 月	13	R6県精神障害者ピアサポーター等スキルアップ研修 <県こころのケアセンター>(NPOあすなろ)
	15	R6ひろば 北播地区<アイグルー・電話・メール>(ほのぼの会)
	16	医療費助成セミナー「兵庫県での精神障害者の福祉医療の実現を進めよ う!」～愛知の市民活動から学ぶこと～<灘区文化センター>(南部、新銀)
		R6ひろば東播地区くふれあい作業所・電話・メール>(明石ともしび会)
	17	医療費助成セミナー「兵庫県での精神障害者の福祉医療の実現を進めよ う!」<県議会大会議室>(南部、新銀)
		国際障害者交流センター運営協議会<ビッグ・アイ>(新銀)
		障害者社会参加推進協議会<県福祉センター>(南部)
		県福祉サービス運営適正化委員会・運営監視協議会会議 <県福祉センター>(三木)
	20	第2回神戸地域障害者雇用・就業支援ネットワーク会議<クリスタルタワー> (佐伯)
		県立ひょうごこころの医療センター運営懇話会<県立ひょうごこころの医療セン ター>(涌波)

2 月	21	東播・淡路地区精神保健福祉研修会<南あわじ市広田地区公民館> (みはら家族会、南部)
	22	阪神北地区こころの病家族教室<三田市総合保険福祉センター>(にじの会)
	23	R6ひろば 淡路地区<いちばん星・電話・メール>(みはら家族会)
		ひょうごボランティア基金R6助成事業報告会<神戸クリスタルタワー>(南部)
	25	ひょうごコミュニティ財団R7助成金2次審査プレゼン・審査<神戸市役所中央区文 化センター>(南部)
	27	福祉センター入居者団体連絡会議<県福祉センター>(事務局)
	28	第20回県障害者芸術・文化祭「美術工芸作品公募展」選考会 <県立美術館>(新銀)
	2	R6ひろば 東播地区くふれあい作業所・電話・メール>(明石ともしび会)
		第20回県障害者芸術・文化祭美術工芸作品公募展<県立美術館>(新銀)
	5	R6年度第4回理事会<県福祉センター>(理事、監事)
3 月		県障害者スポーツ協会通常理事会<神戸市教育会館>(新銀茂)
	6	みんなねっと京都大会第1回実行委員会 <京都社会福祉会館・オンライン>(南部)
		第20回県障害者芸術・文化祭美術工芸作品公募展<県立美術館>(新銀)
	8	R6ひろば 丹波地区<ハートフルかすが・電話・メール>(木の根会家族会)
	9	R6ひろば 阪神北地区<三田市総合福祉保健センター・電話・メール>(にじの会)
	13	R6年度第2回精神障害者への歯科包括ケア体制整備検討会議 <オンライン>(大塚)
	14	みんなねっと理事会<東京都障害者福祉会館>(新銀)
	15	第74回きょうだい会<県福祉センター>(福田)
		R6ひろば 北播地区<アイグルー・電話・メール>(ほのぼの会)
	16	R6ひろば 東播地区くふれあい作業所・電話・メール>(明石ともしび会)
4 月		立憲民主党兵庫県連2025年度定期大会<神戸市教育会館>(新銀)
	18	近畿ブロック代表者会議<オンライン>(新銀、南部)
		第3回みんなねっと交通運賃割引に関するPT会議<オンライン> (新銀、南部)
	19	県障害福祉課委託事業打合せ(松浦様来所)<事務局>(新銀、南部、涌波)
	21	青木聖久氏研修会打合せ<オンライン>(新銀、南部、涌波)
	22	県障害福祉課 委託事業打合せ(南場主幹来所)<事務局>(新銀、南部)
		R6理解 北播磨地区親なき後の子どもの在宅支援を考える会<三木市立教育 センター>(ほのぼの会)
	23	R6ひろば 淡路地区<いちばん星・電話・メール>(みはら家族会)
	25	R6市町障害保健福祉担当課長会議<オンライン>(新銀)
	26	第5回ユニバーサルなスポーツ施設検討会<ラッセホール>(新銀)
5 月	30	但馬・丹波・北播地区こころの病家族教室<三木市立教育センター> (ほのぼの会)

編集後記

「自立とは、依存を増やすことである。」(熊谷晋一郎・東大准教授・小児科医・脳性麻痺当事者) 障がいの有無にかかわらず全ての人に通じる普遍的なこと。困りごとに対応できるように私達は多様な依存先を日常から持っておくことが大事ということですね。(代田)

編集委員：新銀、涌波、南部、満原、大塚、三木、代田